大正3（1914）年建築の橋本市木村家主屋に対する木材の供給

近代の橋本市中心市街地における住宅建築に対する木材の供給 その1

SUPPLY OF THE LUMBER FOR KIMURA'S MAIN HOUSE AT HASHIMOTO CITY IN 1914

Supply of the lumber for building house in central Hashimoto modern times Part 1

平山育男*

Ikuo HIRAYAMA

Researching the building documents of *Kimura* house in *Hashimoto* city, in terms of wooden materials, clarified followings:

1. According to 7 estimates of *Kimura* house, before the building contract, a lumber company provided the estimate after the owner ordered building a house to the constructor.
2. *Matsuyama* (lumber company) provided lumbers for frameworks and *Okamoto* (tile dealer) provided used lumbers for roof truss.
3. The total cost of building *Kimura* house was 2065.02yen and the lumber cost was 1062.42yen which accounted for almost half of the total.
4. The lumbers for *Kimura* house were locally supplied from 8km area around *Hashimoto*.

Keywords : Machine sawing, Estimate, Old materials

機械製材, 見積書, 古材

1. はじめに

住宅の建築に際してどのように木材の供給がなされ、それがどのように建築へ変化を与えたのか。近代の民家研究におけるそのような問い掛けは、現段階では箇々の事例を蓄積する段階にあるとする大場による総括^{注1)}が研究のあり方をよく表していると言えるだろう。本稿は上のような問題意識に立ちながら、近代における建築関係文書などの分析を通して、木材供給の変化が町家と町並みにもたらした変化を明らかにすることを目的とするものである。

研究の方法としては、筆者らが平成11(1999)年以来続けている橋本市中心市街地における町と町家の調査において見出した文書資料類の精査と実際の建物を比較検討することにより、木材供給の実態とその変遷を明らかにすることで考察を進めたい。

この内、本稿では橋本市東家に所在し、大正3(1914)年に建築された木村家住宅主屋について建築資料の読解と建物調査の成果から、この住宅の建築に際して木材がどのように供給されたのかを検討するものである。なお、資料は断りのない限り梅嶋修によりまとめられたものを用いる^{注2)}。

2 木村家住宅と建築資料の概要

木村家住宅は橋本市橋本と東家を分ける橋本川に架かる松ヶ枝橋西袂際に立地する^{注3)}。同家はかつて大和屋喜兵衛（大喜）の屋号を持ち、乾鰯を商った。旧大和街道に北面した主屋は間口7間半、奥

行5間で二階建入母屋造棧瓦葺の構成を有した。主屋小屋組からは表面に「上棟式 木村喜太郎」、裏面に「大正三年九月廿五日」と記された幣串が発見され、これが建築年代を示すものと考えられた。

木村家は大正元(1912)年の水害により家屋が被害を受け、古材を用いながらの工事であったと考えられている。なお、この工事に際しては職人の『日工扣』とする出面控が1通、『控帳』、『建築材料買入控』（以下、『買入控』と称する）と題する材料控2通、見積書類7通（以下、『見積書-1〜7』と称する）、『棟上御祝儀』とする祝儀帳1通の建築資料が伝えられている。

以下、まずは見積書類などを中心に、材木の流通を見て行きたい。

3 見積書類に見る木村家住宅への木材の供給

木村家に伝える見積書類7通には年次が記されないため、前後関係は明らかでないが、梅嶋による配列^{注4)}に矛盾は見られない。

『見積書-1』は「単価」、「合計」欄が空白であることから、他に對して最も適る見積とするのが妥当であろう。なお、『見積書-1』に使われる用紙には「橋本町大正」の文字が印刷される。これを「大工の正太郎」、即ち『買入控』10紙表に記され上棟式における祝儀で棟梁格の上田岩吉に次ぐ金額を得ている「正太郎」^{注5)}と考えれば、まずはこの人物に住宅の見積が託されたと想定出来る。

『見積書-2』以後の書面には「単価」「合計」いずれかの欄に金額が記載される。なお、『見積書-2』の用紙には「橋本町大岩」の文字

* 長岡造形大学造形部 教授・博士(工学)・博士(造形)

Prof., Faculty of Design, Nagaoka Institute of Design, Dr. Eng., Dr. Des.

表1 木村家住宅主屋工事に関わる木材の購入先

紙	表裏	元号	西暦	月	日	出入	名前	平井	松山	岸上	藤兵衛	冷水	前川	岡本	九鬼	その他	内容
1	表	大正3	1914	2	27	代	平井製材所	37.5									二階板
1	表	大正3	1914	2	27	代	平井製材所	20.4									縁
1	表	大正3	1914	3	21	出	平井製材所	10.0									手附渡ス
1	表	大正3	1914	3	31	出	平井製材所	20.0									
1	裏	大正3	1914	7	11	出	岸上助治郎			30							
1	裏	大正3	1914	7	17	入	平井製材所	-									寸板参拾貳枚
1	裏	大正3	1914	4	18	出	杖ヶ藪 松山久吉		40								手付金
1	裏	大正3	1914	6	22	出	松山久吉		50								-
1	裏	大正3	1914	7	31	出	松山氏製材所		0.52								曳貫
1	裏	大正3	1914	7	3	出	岸上助治郎			30							梓部渡ス
2	表	大正3	1914	7	6	出				49.24							全渡ス
2	表	大正3	1914	7	14	出	材木屋藤兵衛				6.75						-
2	表	大正3	1914	7		入	製材所	0.32									桐寸板
2	表	大正3	1914				平井製材所	0.40									古木流失予防心附
2	表	大正3	1914				平井製材所	0.94									電燈代
2	裏	大正3	1914	7	25	出	前川						100				渡ス
2	裏	大正3	1914	7	31	出	平井製材所	20									-
2	裏	大正3	1914			出	上田丑松		2.2								木挽チン
2	裏	大正3	1914	8	7	出	松山久吉		2.3								大黒柱口貫
3	表	大正3	1914	8	9	出	-									0.2	柱、柱之材
3	表	大正3	1914	8	16	出	松山		0.7								大黒柱表引ちん
3	表	大正3	1914	8	11	出	松山久吉		-								五寸角忬丈忬本
3	表	大正3	1914	8	18	渡	松山久吉 上田丑松		1.275								忬半四丁忬丈忬丁 五八忬丈
3	表	大正3	1914	8	25	出	松山久吉		100								-
3	裏	大正3	1914	8	28	出	前川						0.6				柱 洗除之古木
4	表	大正3	1914	9	3	出	橋本前川						50				木代
4	表	大正3	1914	9	14	出	上田丑松		0.4								梓挽割貫
4	裏	大正3	1914	10	4	出	松久		0.8								ユトリ五本 忬丈五本
4	裏	大正3	1914	10	4	出	岸上堀畑助次郎			5							
4	裏	大正3	1914	10	12	出	冷水豊太郎					11.5					材木代
5	表	大正3	1914	10	27	出	岸上出			2							材木代
5	表	大正3	1914	10	31	出	向副冷水					1.4					木材代
5	裏	大正3	1914	5	9	出	岡本喜一郎							30			手付金
5	裏	大正3	1914	7	10?	入	全人							2.5			古材代
5	裏	大正3	1914	7	30	入	-							25			古材代
5	裏	大正3	1914	7	31	入	-							1			全代
5	裏	大正3	1914	9	3	出	-							30			右渡ス
5	裏	大正3	1914	9	3	出	-							10			右渡ス
8	表	大正3	1914	11	30	出	平井製材所	10									-
8	表	大正3	1914	12	17	出	-										0.05 木材の運賃
8	表	大正3	1914	12	17	出	助次郎の分			10							木材
8	表	大正3	1914	12	30	出	九鬼善右門								45		板代
8	表	大正3	1914	12	30	出	瓦や							30			
8	表	大正3	1914	12	31	出	堀畑助次郎			7.2							木材
8	裏	大正3	1914	12	31	出	松久木材代		50								中政へ渡ス
8	裏	大正3	1914	12	31	出	中政		2.85								木材代
8	裏	大正3	1914	12	31	出	冷水木材店					5.13					-
8	裏	大正3	1914	12	31	出	前川材木店						3.5				-
8	裏	大正3	1914	12	31	出	平井製材所	10									-
8	裏	大正3	1914	12	31	出	平井	0.74									-
8	裏	大正4	1915	1	12	出	-									0.1	木材運賃
8	裏	大正4	1915	1	31	出	松山久吉		50								-
8	裏	大正4	1915	1	31	出	九鬼善一								18.3		木材代
9	表	大正4	1915	1	31	出	平井製材所	5									-
9	表	大正4	1915	1	30	出	冷水豊太郎					10					-
9	表	大正4	1915	1	30	出	前川材木店						4.6				-
9	表	大正4	1915	2	11	出	杖かやふ 松山久吉		64								-
9	裏	大正4	1915	2	31	出	平井製材所	7									-
合計[円]								142.3	365	133.4	6.75	28.03	158.7	128.5	63.3	0.35	1026.415
割合[%]								13.9	35.6	13.0	0.7	2.7	15.5	12.5	6.2	0.0	100.0

表2 『日工扣』にみる職人への支払状況

名前など		大隈	伊之助	富吉	喜助	岩積	手体	岩吉	正太郎	竹松	大木	大常	栄吉			惣安	定助	官鶴	たけやん	周一	金銭	小計
職種		手伝	屋根屋	手伝				棟梁	大工	大工		大工	大工	ブリキ屋	デッチ		石屋	左官				
『材料控』等に記載あり	人工計a[人]	0.375	12.5	26	34	6						8.75				23	3					113.63
	支払b[円]	2	5.65	21.5	15.74	3.6						6				14.95	3.6					73.04
日当: c=b/a			0.45	0.83	0.46	0.60		0.90		0.70			0.70	0.70	0.55	0.65	1.20	0.6	0.5	0.5		
『材料控』等に記載なし	未支払人工計A[人]		4.5		3			2.5		0.5			12.6	5	1			5.4	3	0.5		38
	未支払: B=c*A[円]		2.03		1.39			2.25		0.35			8.82	3.5	0.55			3.24	1.5	0.25	1.05	23.88
	該当する費用内訳		建築		建築			建築		建築			建築	屋根	屋根			壁	建築	建築	その他	

凡例 日当欄塗りつぶし 和歌山市: 大正三年和歌山市統計書、大正4(1915).11.諸職工賃金より転載。なお、ブリキ屋は対応するものがなく屋根屋のものを用いた

が印刷されるが、これは大工の岩吉、即ち木村家住宅の建築において棟梁を務めた上田岩吉による見積と判断できる。『見積書・2』は、基本的に『見積書・1』に則った項目立てであることから、『見積書・1』を参照して書面の作成がなされたものと推察される。

『見積書・3～5』は同一の用紙を使い、合計が 792.16 円から 460.11 円、418.47 円へと漸次減額をされていることから、計画変更などに伴う、各段階における見積と考えるのが妥当であろう^{註6)}。前後における関係を確認すると、『見積書・3』以後では、『見積書・2』において 4 紙裏欄外に記された“裏板”“下や板”“側板”が欄内に納められ、『見積書・4』以後には雪隠裏板の項目がなく、雪隠の広小舞と小舞の項目が入れ替わっていることから、先行的に『見積書・2』があり、それに基づき『見積書・3』以後の作成が行われたと見ることができる。作成者は未記載のため明らかではないが、『見積書・3』末尾には“全部割レハ受取ザル事”など『見積書・1,2』と同様に材の仕様に関する但書のあるところを見ると、木材の供給を受ける施工側の文書と考えることができる。

一方、『見積書・6』も項目立はそれまでのものに準ずるが、罫線の模様が異なる。そして末尾に“紀州伊都郡高野口町杖ヶ藪／製材業 松山久吉”と記載することから、本資料は製材業者である松山久吉による作成と判断できる。更に、1 紙表に松山と施主木村の割印があり、本紙は材木についての契約書の一部と見なすことができよう。

『見積書・7』は、『見積書・6』と同一の用紙で、「材長」、「材寸」、「員数」、「単価」、「値段」欄からなる構成はそれ以前と大差はないが、項目立がそれ以前のものとは全く異なり、比較対照が難しい。また、各項目の欄外上には上田の印が多数押印され、3 紙裏末尾には内金控も記されることから、本書類は納品の確認と考えることができるようである。

ところで『見積書・7』に押印した「上田」は如何なる人物であろうか。木村家における一連の資料で上田姓の人物は大工の上田岩吉と材木関係の上田丑松が挙げられる。上田岩吉による見積は既に『見積書・2』があり、『見積書・7』はこれとは用紙、書式とも異なるため、『見積書・7』は上田丑松によるものと言えよう。上田丑松の役割を資料から拾い出すと“上田丑松／古木挽チン”（2 紙裏）^{註7)}、“曳賃 上田丑松渡ス”（3 紙表），“上田丑松／梓挽割賃”（4 紙表）とする記述から、丑松は賃挽に関わった人物と判断される。但し、丑松が独立して製材をしていたのかという点、そうではないらしい。『見積書・7』末尾 3 紙裏における内金支払、40 円、50 円、100 円、50 円を、『買入控』と対照させると、これらは順に大正 3(1914)年 4 月 18 日の杖ヶ藪松山久吉、同年 6 月 22 日松山久吉、同年 8 月 25 日松山久吉、同年 12 月 31 日松久材木代に各々該当する。以上を勘案すると上田丑松は松山久吉の下で製材を行った人物で、『見積書・7』は材料と金銭の受取控を兼ねたものと考えるのが妥当である。

以上、7 通ある見積書について考察を加えたが、これから判明するのは、施主の木村家から先ず大工職に対して見積の発注がなされ、それを受けて木材を供給する製材職からの見積が出されて契約に至り、木材の納品が行われたとする流れである。また、木材の納品は見積書を検討する限り、松山久吉関連者からに限られる。

なお、見積書に記される部材は、柱、敷鴨居、垂木、小舞、広小舞、廻縁、竿縁、土居縁、長押、便所桁及び棟木、便所縁板、便所

床板、便所垂木、便所瓦棧、便所広小舞、便所小舞、2 階敷鴨居、2 階廻縁、2 階棹縁、2 階天井板等に過ぎず、大部分の床板、1 階天井板等の板類、小屋組などの野材がない点は注意を要する。

4 材料控に見る木村家主屋への木材供給

見積書類の考察から、木村家に対する木材の供給は大工の見積に基づき、製材所を営む松山久吉からなされたと考えることができたが、木材供給の経路はそれだけであったのだろうか。

木材の買入を確認できる資料は他に『控帳』と『買入控』の材料控がある。『控帳』は屋根瓦と木材など量の多い物品が項目としてあげられものの、値段は一切記されないことから注文控的な性格を有する書類と考えられる。一方、『買入控』は材木、手間賃、セメント代、手間代などが詳細に記され、日々における支払控としての性格を持つものであることが分かる。

さて、『控帳』によれば木材の注文は松久、即ち松山久吉、それと中谷政助に対してなされたことが分かる。但し、松山久吉に対するものは 2 紙裏と 6 紙裏の 2 箇所を過ぎず、3 紙表から 5 紙表に渡っては中谷政助に対しての注文が記される。一方、『買入控』によると木材の注文は、1 紙表に平井製材所、1 紙裏に岸上助治郎、平井製材所、松山久吉、2 紙表にかけて再び岸上助治郎、2 紙表は材木屋藤兵衛、製材所、3 紙表に柱之材、松山久吉、上田丑松、再び松山久吉、3 紙裏に洗掃之古木、前川□□、4 紙表に上田丑松、4 紙裏に松久、材木代冷水豊太郎、5 紙表に岸上、向副冷水、5 紙裏岡本喜一郎、8 紙表に平井製材所、板代九鬼善右門、堀畑助次郎木材、8 紙裏に松久木材代／中政へ渡ス、中政木材代、前川材木店、8 紙裏から 9 紙表にかけて木材代／九鬼善一、9 紙表に前川材木店、松山久吉、9 紙裏に平井製材所など多岐にわたる。なお、これらの人物について祝儀を対応させると、『買入控』12 紙表に前川材木や、12 紙裏に平井製材 2 者から各々、酒一升切手の祝儀が木村家へ贈られ、木村家からは返礼として『買入控』14 紙表に上棟くばりものについて前川、製材への記載を見ることができる。

以上のように『買入控』から、見積書に名前が挙がった松山久吉以外にも実は幾つもの経路をたどって木材の入手の行われたことが判明する。それを金額との関係でまとめたものが表 1 である。つまり松山へ対する木材関係の支払額 365.1 円は、木材に対する支払 829.2 円に対して最大の割合である 44.0%を占めるものの、これ以外にも平井製材所に対しては 109.9 円で 13.3%、前川材木店へは 108.7 円で 13.1%、岸上助治郎へは 81.24 円、9.8%となる。つまり、木村家主屋の建築に際しては複数個所の製材所、材木店へ分散して木材の発注がなされ、筆頭となる松山製材所の占める割合は半数以下であったことが分かる。このように幾つかの事業所に分けて木材の発注がなされたのは如何なる理由によるものであろうか。

それは恐らく注文内容に関わると考えることができるようである。表 1 の摘要欄に各回における内容を略記したが、平井製材において注文内容が分かるものは“二階板”“縁”“萱寸板”で、いずれも板材である。また、岸上助治郎に対しては“梓”材の発注がなされ、特殊な材種に対しての注文であったと考えることができる。

即ち、木村家への木材の供給は、松山久吉が柱など軸部材を中心に材料の供給を行い、平井製材が板材、岸上助治郎が特殊材の供給を行ったと考えることができるのである。

表3 『建築材料買入控』にみる木材及び工事種別の支払

紙	表裏	月	日	購入先	購入内容	種別	値段[円]	出入
1	表	2	27	平井製材所	二階板正寸貳拾五坪	木材	37.50	
1	表	2	27	平井製材所	柵無地四歩尺一様拾貳束	木材	20.40	
1	表	3	21	平井製材所	手附渡ス	木材	10.00	
1	表	3	31	平井製材所		木材	20.00	
1	表			原田	根廻貳人払	?	1.40	
1	表			生地	日工壹人	?	0.50	
1	裏	7	11	岸上助治郎		木材	30.00	
1	裏	7	17	平井製材所	壹寸板三拾貳枚	木材		
1	裏	4	18	杖ヶ藪松山久吉	手附金	木材	40.00	
1	裏	5	26	杖ヶ藪松山久吉	桧式間半 五寸角七丁	木材		
1	裏	6	22	松山久吉	払渡ス 使息子	木材	50.00	
1	裏	7	31	松山氏渡ス	製材所曳賃度ス	木材	0.52	
2	表	7	3	岸上助治郎	梓部 渡ス	木材	30.00	
2	表	7	6	岸上助治郎	全渡ス	木材	49.24	
2	表	7	10	橋本運送店	延口口運賃	その他	1.05	
2	表	7	11	橋本運送店	セメント五個代運賃	その他	2.75	
2	表	7	14	橋本運送店	セメント五個代運賃	その他	14.00	
2	表	7	14	材木屋藤兵衛		木材	6.75	
2	表	7	18	表の喜助	七工掃除	その他	3.50	
2	表	7	18	口川口之助		その他	2.45	
2	表				右掃除七工分 夜業貳晩	その他	0.20	
2	表	7		製材所	柵壹寸板	木材	0.32	入
2	表	7	24	平井製材所	古木流失予防心附	木材	0.40	
2	表	7	24	平井製材所	電燈代	木材	0.94	
2	裏	7	25		市 外 買物	その他	20.00	入
2	裏	7	31	前川	渡ス	木材	100.00	
2	裏	7	31		縄	壁	0.36	
2	裏	7	31	表の喜助	瓦磨キ外新月	屋根	2.30	
2	裏	7	31	平井製材店		木材	20.00	
2	裏	7	31	中尾	古縄代	その他	1.17	
2	裏	7	31	横茂	口縄 モヲコ代	その他	0.87	
2	裏	7	31	上田丑松	古木挽賃	木材	2.20	
2	裏	8	7	松山久吉	大黒柱口賃	木材	2.30	
3	表	8	9	梅原	セメント用人工賃	基礎	19.00	
3	表	8	9		柱 柱之材	木材	0.20	
3	表	8	9		石運心附	基礎	0.10	
3	表	8	14	○天	延石代	基礎	5.95	
3	表	8	16	松山	大黒柱表引賃	木材	0.70	
3	表	8	11	松山久吉	五寸角壹丈 壹本	木材		入
3	表	8	18	松山久吉 上田丑松渡ス	比貳半四丁壹丈貳丁五八壹丈 壹丁 曳賃	木材	1.28	
3	表	8	14	梅原	セメント口貳個代	基礎	2.00	
3	表	8	25	松山久吉		木材	100.00	
3	裏	8	28	前川口口	柱 洗浄ノ古木	木材	0.60	
3	裏	8	31	畑萬		その他	0.19	
3	裏	8	31	北谷与三郎	葉二十三束	その他	0.92	
3	裏	8	31	坂部	針代	その他	0.67	
3	裏	8	31	中尾	縄代	その他	0.61	
3	裏	8	31	村木池永飯	口口口口	その他	0.25	
3	裏	8	31	堤鶴吉	セメント代	基礎	3.00	
3	裏	9	1		延石代	基礎	0.90	
3	裏	9	2	下地安吉	岩九拾二口七錢五厘	基礎	19.65	
3	裏	8	31	妙中伝三	岩抜口 廿五工貳錢五分	基礎	25.45	
3	裏	9	3	定助	九工七錢五分	基礎	8.78	
4	表	9	3	全人	沓石代	基礎	2.50	
4	表	9	3	上田岩吉	大工	建築	50.00	
4	表	9	3	橋本前川渡ス	木代	木材	50.00	
4	表	9	3	表の喜助	手伝賃	基礎	8.37	
4	表	9	8	梅原	土砂運び	基礎	15.00	
4	表	9	14	上田丑松	梓挽割賃	木材	0.40	
4	表	9	22	市 五郎口人	竹五束代	壁	3.40	
4	表	9	28	土代 石油箱一杯五銭		壁	8.95	
4	表	9	30	原野	釘代	建築	2.32	
4	表	9	31	表能喜助		壁	5.00	
4	表	9	31		縄代横茂		0.36	
4	裏			畑萬	鉄口十 口十	建築	0.85	
4	裏	9	2	伊都幸	増ニヨリ竹五ワ ダチン	壁	0.52	
4	裏	10	4	市脇五呂平	竹六束代	壁	4.08	
4	裏	10	4	松久	ユトリ五本 壹丈五本挽チン	木材	0.80	
4	裏	10	6	中尾田 岡本喜一郎		屋根	49.99	
4	裏	10	7	岸上出 堀畑助次郎		木材	5.00	
4	裏	10	7	原田	土運び賃	屋根	8.45	
4	裏	10	12	かしこ堂	竹屋払	その他	5.00	
4	裏	10	12	冷水豊太郎	材木代	木材	11.50	

4	裏	10	12	向副	岩積二人二工	庭	2.30	
4	裏	10	14	丁田 才吉		?	16.00	
5	表	10	14	表能喜助		壁	2.00	
5	表	10	17	喜助	六工分	壁	3.00	
5	表	10	17	喜助ワラ運賃	一束二銭新畑より	壁	0.50	
5	表	10	22	東家の人	岩代	庭	0.98	
5	表	10	27	岸上出	木材代	木材	2.00	
5	表	10	27	東家の人	土代	庭	0.35	
5	表	10	31	小南弘	上棟角	その他	1.27	
5	表	10	31		酒代	その他	7.73	
5	表	10	31	向副 冷水	木材代	木材	1.40	
5	表	10	31	畑万	針金	建築	4.19	
5	表	10	31	口間	十ワ貳十束	壁	0.26	
5	表	10	31	表能喜助		壁	1.25	
5	表	10	31	松喜	土樋代	建築	0.49	
5	表	10	31		縄代	壁	2.17	
5	表	10	31	粉徳	縄代	壁	0.30	
5	表	10	31		釘代	建築	4.61	
5	裏	5	9	小原田 岡本喜一郎	手附金 渡ス	木材	30.00	
5	裏	7	10	全人	古材代	木材	2.50	入
5	裏	7	30		古材代	木材	25.00	入
5	裏	7	31	全代		木材	1.00	入
5	裏	9	3		右渡ス	木材	30.00	
5	裏	9	6		右渡ス	木材	10.00	
5	裏	9	7	岡本	祝義	その他	0.50	
5	裏	11	17	岡本喜一郎へ渡ス		屋根	5.00	
5	裏	11	17	岡本喜一郎へ渡ス	右勘定相口口也	屋根	30.00	
6	裏	12	30	大岩渡ス		建築	10.00	
6	裏	12	31	〃 渡ス		建築	70.00	
6	裏	12	31	渡ス		建築	5.00	
6	裏	1	14	大岩渡ス	柳田分	建築	2.00	
6	裏	1	21	大岩へ渡ス	柳田分	建築	5.00	
6	裏	1	21	大岩へ渡ス		建築	100.00	
6	裏	9	3	大岩へ渡ス	使正太郎	建築	50.00	
6	裏	2	13	大岩渡ス		建築	130.00	
6	裏			大岩払		建築	10.00	
6	裏	4	30	〃		建築	16.00	
6	裏	5		大岩払ス	≒798.3	建築	10.00	
6	裏				九十本	建築	2.90	
6	裏				四拾三本	建築	2.00	
7	表	7	3	大岩渡ス		建築	30.00	
7	表	8	15	大岩渡ス		建築	20.00	
7	裏	7	7	御所 丸天	延石手附	基礎	5.00	
7	裏	10	30	小出	油二合代	その他	0.10	
7	裏	10	30		ゾリ八足	その他	0.15	
7	裏	10	30	堤鶴土樋左官	石灰一升代	壁	1.10	
7	裏	11	2	綿会社	コモ廿代	その他	1.40	
7	裏	11	8	東家の人	岩運賃	庭	1.20	
7	裏	11	8	表能喜助に礼		壁	0.10	
7	裏	11	17	向副の岩積二工		庭	1.30	
7	裏				礼	庭	0.10	
7	裏	11	18	御所	延石代	庭	5.00	
7	裏	11	23		竹代	壁	1.67	
7	裏	11	23		竹代	壁	1.40	
7	裏	11	30		ナワ代	壁	0.15	
7	裏	11	30		鉢代	庭	0.65	
7	裏	11	30		上棟二付魚竹払	その他	7.86	
8	表	11	30	瓦与夫など		屋根	0.55	
8	表	11	30	平井製材店		木材	10.00	
8	表	11	30	丸天	延石代	庭	4.15	
8	表	11	30	表能喜助渡ス		壁	4.40	
8	表	11	30		シュロ縄代	壁	0.56	
8	表	11	30		釘代	建築	31.17	
8	表	11	20	大隈の礼		その他	2.00	
8	表	12	13		屋根屋払	屋根	5.50	
8	表	12	15	石福	障子四本代	建具	1.70	
8	表	12	17		名口より来る 木材の運賃	木材	0.05	
8	表	12	17	新畑	ワラ六束の運賃	壁	0.09	
8	表	12	17	助次郎の分	木材	木材	10.00	
8	表	12	17	新畑	ワラ十四束の運賃	壁	0.21	
8	表	12	21	惣安払		?	3.00	
8	表	12	21	惣安払		?	3.50	
8	表	12	30	九鬼善右門	板代	木材	45.00	
8	表	12	30		兵や	屋根	99.99	
8	表	12	31	堀畑助次郎	木材	木材	7.20	

表 4 『建築材料買入控』における木材費用と各工事費の内訳

項目	木材	基礎	建築	壁	建具	畳	屋根	庭	その他	不明	『日工扣』	合計
金額[円]	1026.42	109.89	564.96	53.93	30.63	6.00	62.66	26.45	92.31	70.91	23.88	2068.02
百分率[%]	49.63	5.31	27.32	2.61	1.48	0.29	3.03	1.28	4.46	3.43	1.15	100.00

月 19 日から上棟式前日の 9 月 22 日までが僅かで、以後 12 月 23 日までのものが多く、年を改め 2 月までのものが書き加えられる。そして随時締めがあり、雇用者への賃金支払が記録される。

『日工扣』における出面の記録は手伝、屋根屋、大工、ブリキ屋、石屋、左官などについてで、合計 151.625 人工分が記録される^{注 8)}。そして各職方に対して一定期間毎に締めがあり小計とされ、人工数に応じた支払額が記録され、その金額が『買入控』へ転載される。但し、小計をして支払が記されるのは 113.625 人工、全体の 75% に当たる 73.04 円に留まり、残る 38 人工は『日工扣』に出面は記録されるものの、『日工扣』及び『買入控』に支払の記録が残らない。そこで、この 38 人工に対して、『日工扣』において事前に支払記録があるものはそこから日当を算出し、事前に支払がないものは同時期における標準的な日当^{注 9)}を当てはめて支払相当額を算出すると、『日工扣』において記録の残らない人工の支払額は 23.88 円となる(表 2 下段)。つまり、この 23.88 円を以下、工事費総額に算入して考える必要がある。

6-2 『買入控』にみる支払内訳

大正 3(1914)年における木村家住宅主屋工事に際して、各工事費の内訳が示される資料は『買入控』である。この資料は表紙及び 14 紙までに各工事における材料などの買入が記録される。これらの支払記載中には手伝(日雇人夫)など職人への支払も一部含まれ、10 紙裏以後は上棟式に受けた祝儀などの記載に宛てられる。そこでこの資料について、主屋工事に関係する支払の記述に限り一覧にしたものが表 3 に示した 197 項目となる。表では種別として「木材」の買入項目を独立させ、これと基礎、建築、畳、建具、屋根、庭、その他の各工事に関する項目で分類した。

6-3 『買入控』にみる木材の支出

更に、『買入控』の項目で木材の項目を抜き出し、これに各工事費別にまとめたものが表 4 となる。これによると木村家が『買入控』に記した工事費総額は見え消しも含め 2,044.14 円となる。但し、ここには前述した『日工扣』における職人に対する支払未記載分 23.88 円を含む必要があるため、工事費総額は 2,068.02 円となる。そして木材の代金は 1,026.42 円であるため工事費総額に占める割合は 49.7% となり、木材の買入費用は工事費総額の約半分を占めることとなる。

7 木村家主屋建築における木材の購入先

木村家に木材を供給した業者は既に挙げたように松山製材所など 8 箇所となる。この内、金額的に最も多いのが橋本の南 8km 程杖ヶ藪の松山が 37%、次いで橋本の前川材木店が 16%、橋本の対岸に位置する向副の平井製材所が 14%、橋本西 3km 程に位置する堀畑の岸上助次郎が 13%、古材を供給した岡本喜一郎は橋本の 0.8km 程北西の小原田、橋本の冷水製材所は 3% であった。なお、その他に所在不詳の業者として九鬼善右門が 6%、藤兵衛が 1% となる。

即ち、不明分を除くと木村家主屋の建築においては古材を含め全

ての木材が橋本周辺 8km と比較的近距离の業者から供給されていると判断できるのである。

8 まとめ

橋本市東家木村家住宅の建築文書と建物について、木材の供給という観点から考察を行ったが、明らかとなるのは以下の点である。

- 1) 木村家における 7 冊の見積書は、施主木村家から先ず大工職に見積が発注され、それを受けて木材を供給する製材職からの見積が出されて契約に至り、松山製材所から木材の納品が行われた。
- 2) 木村家への木材供給は、松山久吉が柱などの軸部材を中心に提供を行い、平井製材が板材、岸上助治郎が特殊材の供給を行い、岡本喜一郎が古材により小屋組材を供給したと考えられる。
- 3) 古材購入先である岡本喜一郎は、文書において「瓦や」と記載される。
- 4) 木村家の『日工扣』は原則的に表紙表にある大正 3(1914)年 10 月 4 日から年内の記録で、木村家が自営で雇った日雇に対する出面と支払の一部を示したものである。
- 5) 木村家住宅主屋建築に際しての工事費総額は『買入控』記載に『日工扣』の職人への支払未記載分を含めた 2,065.02 円となり、この内、木材は 1,026.42 円で工事費総額の凡そ半分となる。
- 6) 木村家主屋の建築においては古材を含め全ての木材が橋本周辺 8km の近距离から供給された。

なお、本研究は平成 23(2011)年度科研費(基盤研究(C))20560606 の助成による研究成果の一部である。

注

- 注 1) 大場修・柴田祐子: 重要文化財石谷家住宅の大正新築工事に關する史的研 究 工人と職人・建築資材の調達と計画、1 頁、平成 22(2010).3
- 注 2) 梅嶋修: 近代における町家建築・屋敷構え・町並みの形成 和歌山県橋本市中心市街地の文書・図面・棟札・幣串より 別冊資料、平成 20(2008).3、私家版。以下、本書を、梅嶋修: 別冊資料、と略記する。
- 注 3) 木村家住宅は平成 14(2002)年 3 月、区画整理事業の一環である橋本川河川改修工事により建物と護岸の石積は取り壊しを受けている。
- 注 4) 梅嶋修: 別冊資料、29~55 頁、前掲
- 注 5) 梅嶋修: 別冊資料、25 頁、前掲
- 注 6) 「相見積」の可能性もあるが、用紙が同一であるため段階的な見積と考えるべきであろう。
- 注 7) / は改行を示す。以下同様。
- 注 8) 一部、時間で記されるものは 8 時間を 1 人工として人工に換算した。
- 注 9) 和歌山市: 大正三年和歌山市統計書、89~91 頁、諸職工賃金、大正 4(1915).11

(2012 年 4 月 9 日原稿受理, 2012 年 5 月 31 日採用決定)